

第2期ロジスティクス環境会議 グリーンサプライチェーン推進委員会
源流管理分科会活動報告

グリーンロジスティクスチェックリスト 活用のすすめ

2008年6月6日

ロジスティクス環境会議

グリーンサプライチェーン推進委員会

源流管理分科会 幹事

矢野 裕児、菅田 勝

0. 源流管理分科会の体制と開催実績

□幹事(敬称略)

流通経済大学 矢野 裕児
リコーロジスティクス(株) 菅田 勝

□メンバー(50音順)

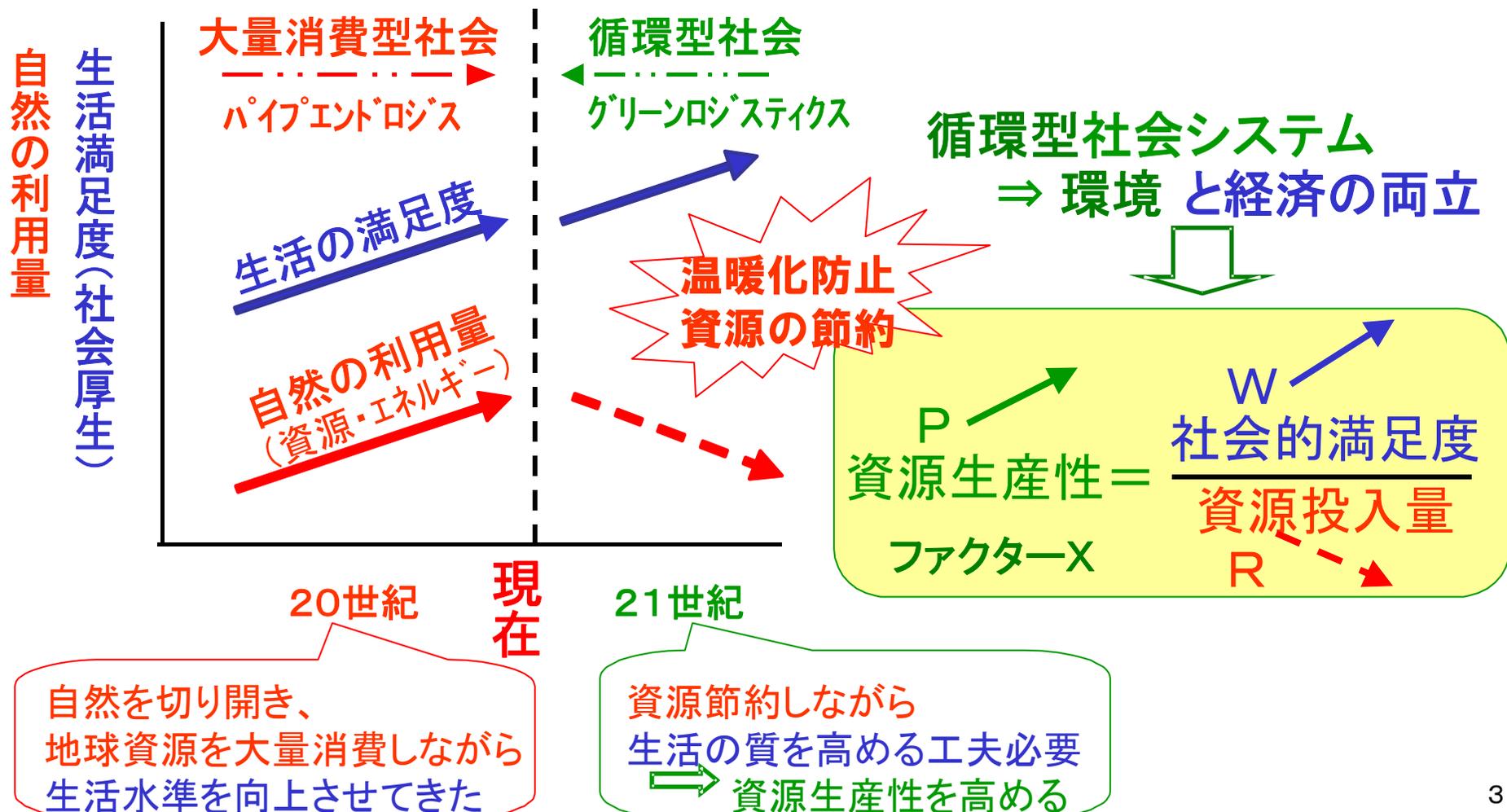
愛知陸運(株)、(株)エプソンロジスティクス、オリンパス(株)、
鴻池運輸(株)、センコー(株)、大和物流(株)、東芝物流(株)
日本通運(株)、プラネット物流(株)、文化ファッション大学院大学
(株)ヤマタネ

□会合数

分科会	12回(うち5回は会合前に勉強会実施)
少人数検討会	4回
非公式会合	12回 + α

持続可能社会 資源循環の重要性

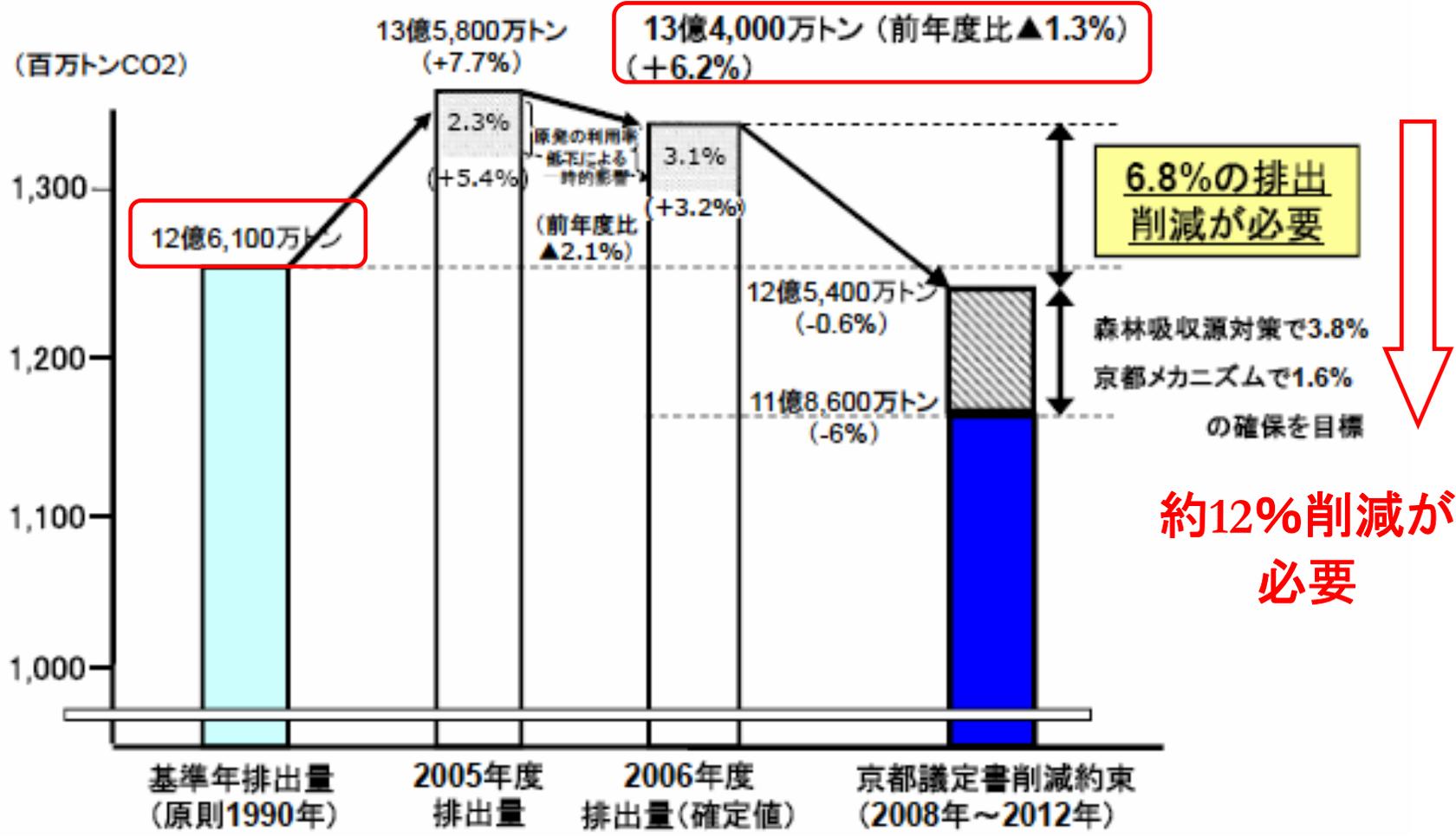
自然の利用量を減らしつつ、生活満足度を高める。
地球資源(含 エネルギー)を大切に、次世代に残す。



1-2. 地球温暖化問題

我が国の温室効果ガス排出量

2006年度における我が国の排出量は、基準年比6.2%上回っており、議定書の6%削減約束の達成には、**6.8%**の排出削減が必要。



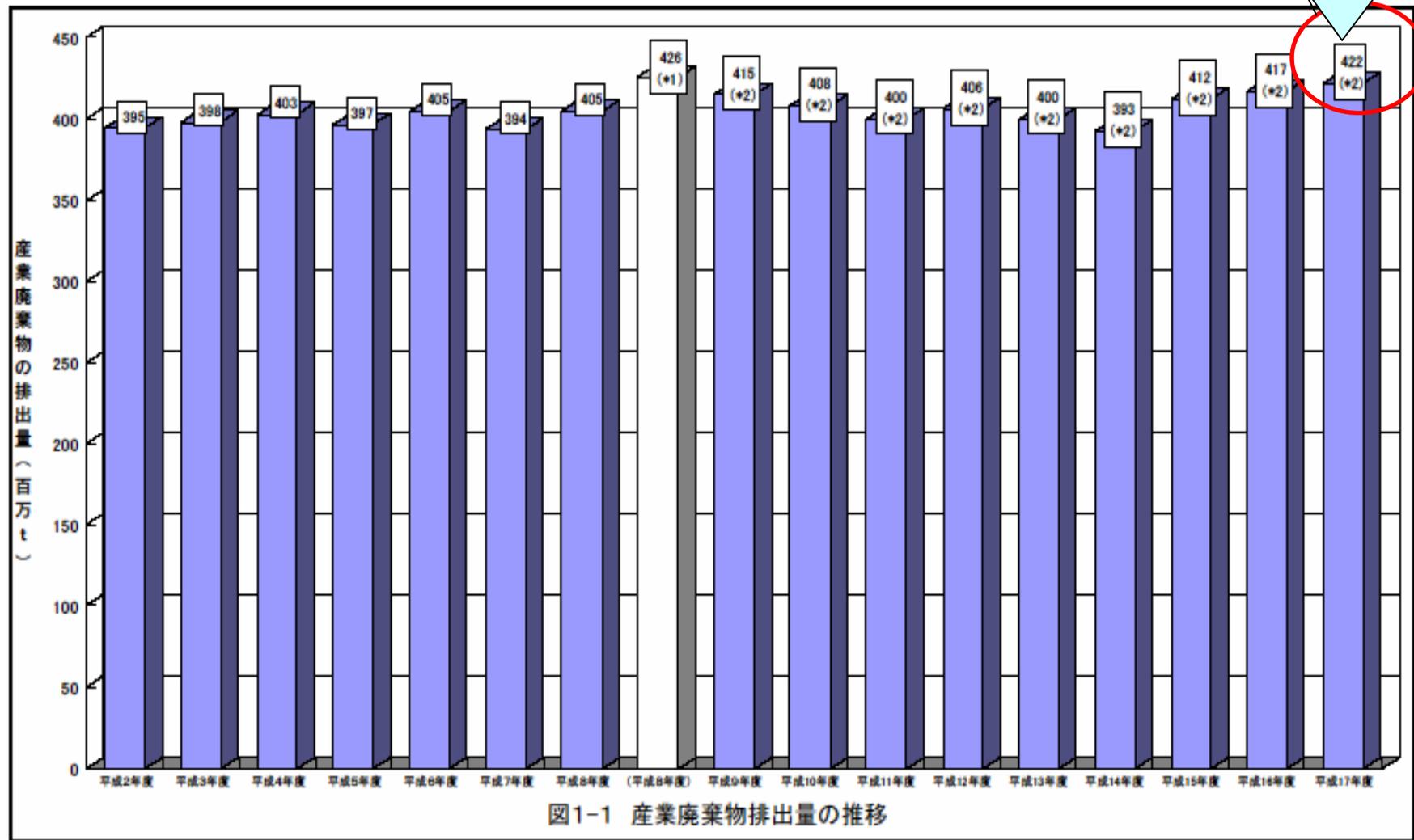
出典: 2006年温室効果ガス排出量(確報値) (環境省)



1-3. 廃棄物問題 -日本の実績-

4億2200万トン
(東京ドーム約 杯*分)

産業廃棄物 総排出量

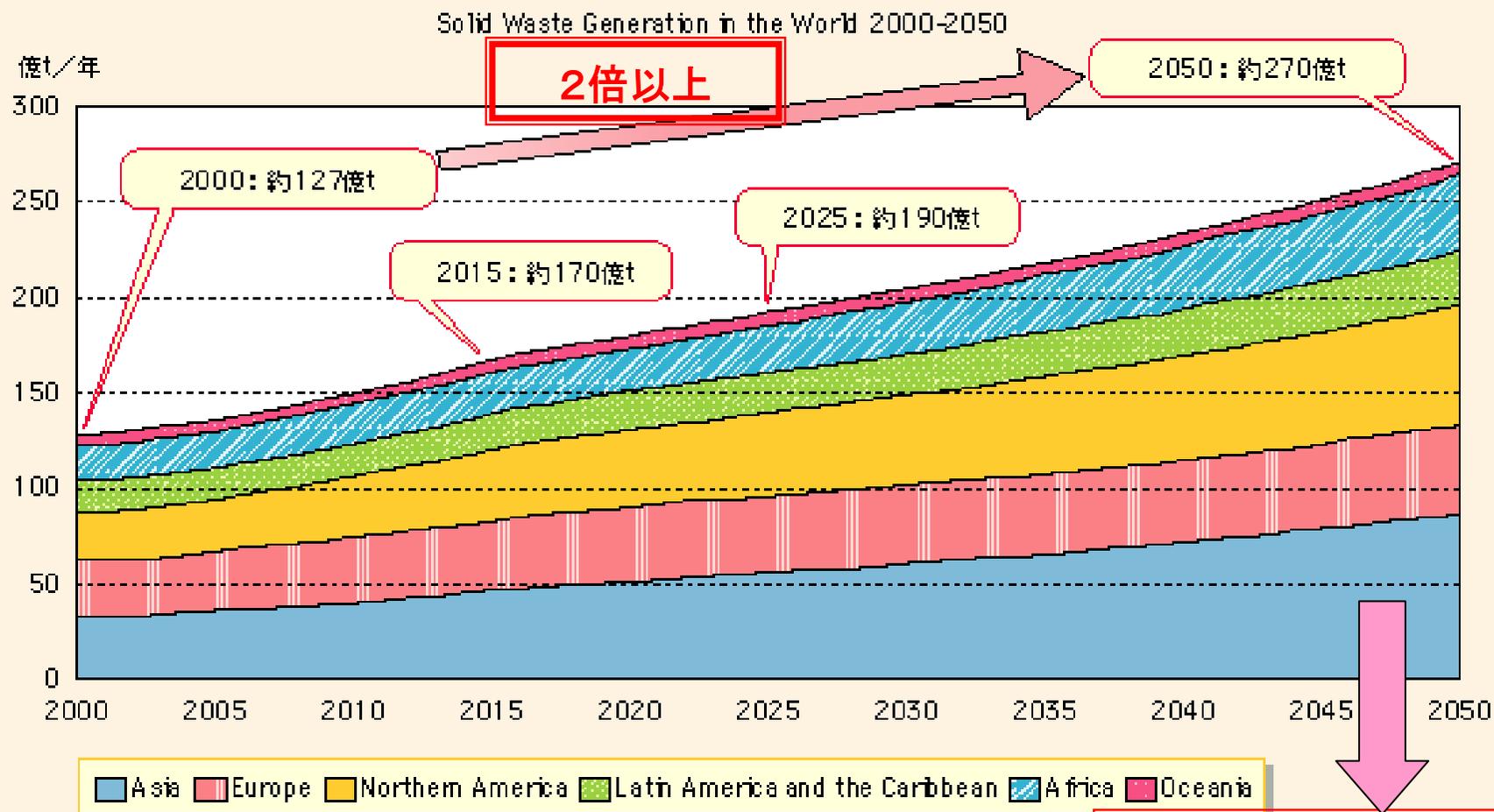


産業廃棄物 総排出量:産業廃棄物の排出及び処理の状況等(2005年度)について(環境省)



*1立方メートル= で換算

世界の廃棄物排出量の将来予測



資料：岡山大学田中教授論文

1-5. 資源・エネルギーの逼迫

表1.2-1 主な鉱物資源の状況

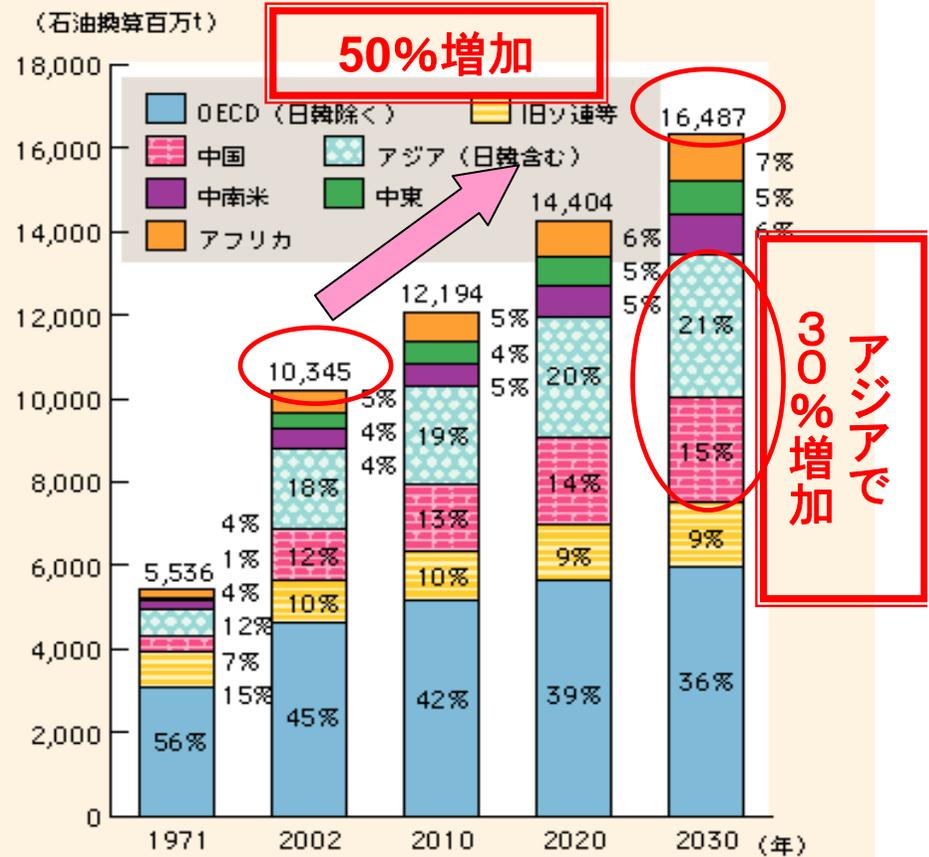
	銅	亜鉛	鉛	ニッケル	クロム	マンガ	コバルト	タングステン
日本の消費量 (万t/年)	125	66	30	18	47	74	0.7	0.6
世界の年間産出量 (万t/年)	1,400	800	600	114	1,280	674	2.8	3.1
探掘可能年数	46	55	24	40	280	100	160	60

モリブデン	バナジウム
1.8	0.6
13	4
40	250

諸外国の資源循環政策に関する基礎調査(2006.3) (経済産業省)



図4-1-6 世界の一次エネルギー需要の見通し

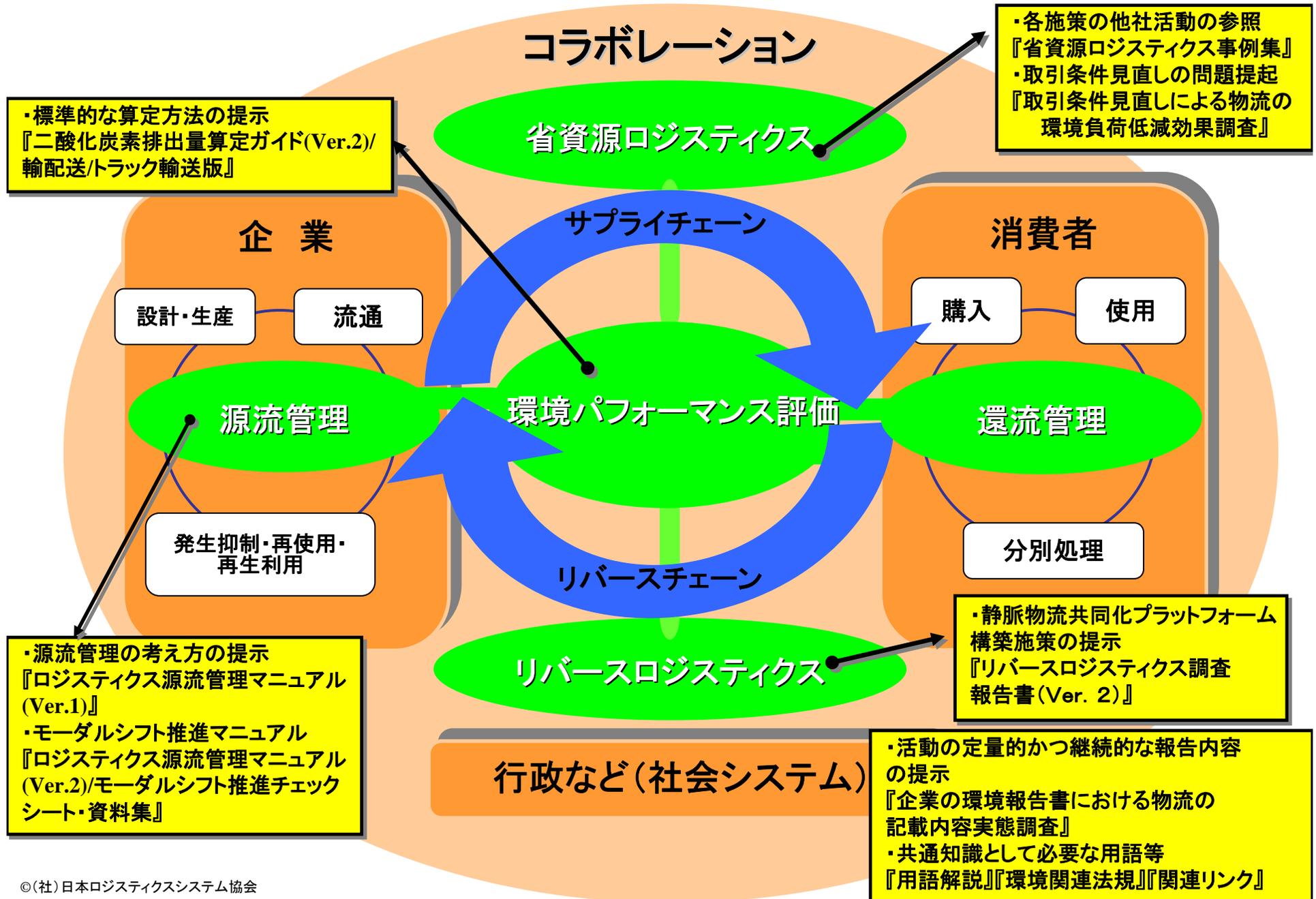


資料：IEA「World Energy Outlook 2004」

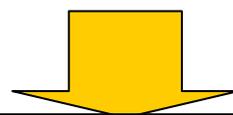
平成19年版 環境・循環型社会白書P54 (環境省)

* IEA...国際エネルギー機関

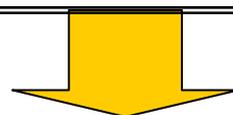
(参考)循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザインと第1期成果物の位置づけ



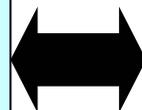
- 物流・ロジスティクスに携わる企業においても、「**輸送**」、「**包装**」、「**保管・荷役・流通加工**」等の物流活動で膨大な環境負荷を排出（物流部門・物流企業も環境負荷の発生源：源流）



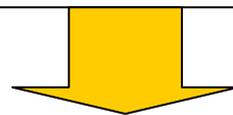
- 効率的でかつ環境負荷の少ないロジスティクスを実現するために必要となる活動項目等を整理できないか？



LEMSチェックリスト(111項目)
(2001年、2003年改訂)



企業回答者にとって回答しにくい
・「実施中」の基準が分からない
・項目の内容が実務と合致しない等



「グリーンロジスティクスチェックリスト」の策定

2-2. グリーンロジスティクスチェックリストとは

グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0 2008/3/11

特長1

特長2

特長3

分類	No.	チェック項目	実施度合い				備考欄には、実施状況の概要を記載してください。 該当する場合は、該当する番号を記載して下さい。
			1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている	
方 針 計 全社的な取り組み の仕組み、体制の整備	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントが不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	本館に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へ積極的に公表している。	トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(国連エコロジーマネジメント計画) http://www.nccco.or.jp/top/green_management_manual/truck_01.pdf
	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	ロジスティクス分野における方針が存在しない。	ロジスティクス分野における方針を策定中である。	ロジスティクス分野における方針は策定されているが、具体的な実施計画等にはリンクしていない。	ロジスティクス分野における方針、目標、重点施策を策定し、それに基づいた活動を実施している。	
	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	グリーンロジスティクスを推進する体制が存在しない。	環境部門の設置、もしくは環境担当者が選任されているのみで、各事業所を含めた推進体制構築までは至っていない。	各事業所を含めた全社的な推進体制が構築され、それぞれ責任者が任命されている。	本館に加え、各段階で、定期的に委員会が開催されている。	トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(国連エコロジーマネジメント計画) http://www.nccco.or.jp/top/green_management_manual/truck_01.pdf
	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	グリーンロジスティクス推進に向けての計画は存在しない。	本館の計画を策定中である。	本館の計画は策定しているが、策定部門以外には把握していない。	本館の計画を策定し、全社的に周知徹底している。	トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(国連エコロジーマネジメント計画) http://www.nccco.or.jp/top/green_management_manual/truck_01.pdf
	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練を実施しておらず、個別も行ったことはない。	グリーンロジスティクス推進のための教育訓練実施に向けて、検討している。	ロジスティクス関係部門を対象とした教育訓練は実施しているが、定期的かつ計画的なものではない。	環境に関する教育メニューを整理し、ロジスティクス関係部門に対し、定期的かつ計画的に教育訓練を実施している。	トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(国連エコロジーマネジメント計画) http://www.nccco.or.jp/top/green_management_manual/truck_01.pdf グリーンロジスティクスエクスパート講座、グリーン物流基礎コース(1,2,3) http://www.logistics.jp/education/seminar/feature_01ad
	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を把握していない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目の一部は把握しているが、全て網羅できていない。	自社のロジスティクス活動で発生する環境負荷の項目を全て把握、整理できている。	本館に加え、把握、整理した内容を方針や計画の策定の際に応用している。	
	7	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。	海外拠点、国際物流については、実施者を含めて全く把握していない。	海外拠点、国際物流については、環境対応を実施していない。	海外拠点、国際物流について、事業所ごとに環境対応を進めている。	海外拠点、国際物流について、会社として統一的に環境対応を進めている。	
	8	ロジスティクス分野において、法令遵守(環境負荷削減、省エネルギー等)の取り組みが実施されている。	自社が遵守しなければならない法令が整理されていない、もしくは整理されているかどうか不明である。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を整理しているが、該当する部門の従業員への周知や教育を行っている。	ロジスティクス分野に関連して遵守しなければならない法令を従業員へ周知・教育を実施している。	本館に加え、定期的な内部監査等でチェックしている。	+OGL 関係法令 http://www.logistics.jp/green/laws.html
	9	ISO14000aを取得している(自己宣言報告の活動をしている)。	ISO14000aを知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	ISO14000aの取得に向けて、検討している。	一部の事業所でISO14000aを取得している。	全社でISO14000aを取得している。	+日本工業標準化協会 ホームページ http://www.jis.go.jp/www/iso-14001.html
	10	エコアクション21を取得している(自己宣言報告の活動をしている)。	エコアクション21を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	エコアクション21の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でエコアクション21を取得している。	全社でエコアクション21を取得している。	+財団法人地球環境戦略研究機関 持続性センター http://www.e21.jp/
	11	グリーン経営認証を取得している(自己宣言報告の活動をしている)。	グリーン経営認証を知らない、もしくは取得の検討を行ったことがない。	グリーン経営認証の取得に向けて、検討している。	一部の事業所でグリーン経営認証を取得している。	全社でグリーン経営認証を取得している。	+国連エコロジーマネジメント計画ホームページ http://www.nccco.or.jp/top/truck_02/engp.html

→お手元の「グリーンロジスティクスチェックリストver1」(水色の冊子)のP21～
をご覧ください

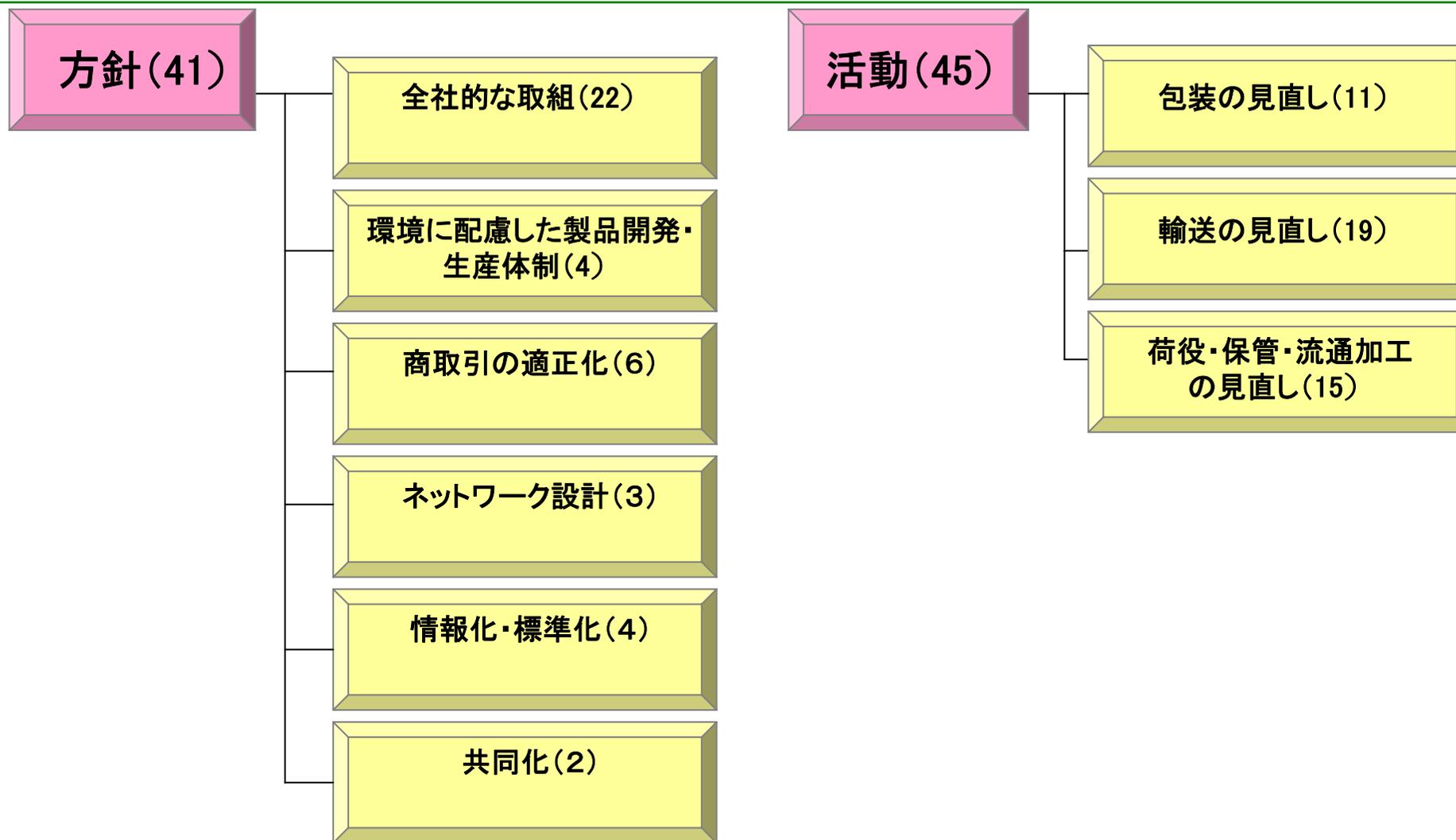
特長1: 全86項目のチェック項目

⇒環境方針展開、組織体制構築から、物流部門にとって身近な活動項目、さらには他部門、取引先との連携を意識した項目まで網羅

特長2: 4段階の実施レベル(実施度合い)の策定

特長3: 参考情報の掲載

2-4. グリーンロジスティクスチェックリストの構成



○86項目が、「方針」、「活動」から構成される。

○製品開発、商取引等といった他部門や取引先との連携を意識した項目

2-5. チェック項目(その1)

1.1 全社的な取り組み ①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備

No.	チェック項目
1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。
2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。
3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。
4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。
5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。
6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。
7	海外拠点を含めて、ロジスティクス分野における環境対策を実施している。
8	ロジスティクス分野において、法令遵守(廃棄物処理法、各種リサイクル法、過積載輸送の防止など)徹底に向けて取り組みをしている。
9	ISO14000sを取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
10	エコアクション21を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
11	グリーン経営認証を取得している(自己宣言相当の活動をしている)。
12	ロジスティクス活動に伴って発生する廃棄物の再資源化に向けて取り組んでいる。
13	輸配送に係る環境パフォーマンスを算定している。
14	包装に係る環境パフォーマンスを算定している。
15	グリーンロジスティクス推進のため、グループ企業、取引先、業界団体(自主行動計画など)と共同で取り組んでいる。
16	協力会社(備車先等)に対し、環境配慮のための育成・指導を行っている。
17	物流拠点の周辺住民と共に、環境負荷(騒音、振動、ゴミ等)の軽減に向けた取り組みを実施している。
18	ロジスティクス分野における環境に対する取り組みを環境報告書や環境レポート等に記載している。
19	グリーンロジスティクス推進に寄与する、行政等の各種支援策を把握し、活用している。

2-6. チェック項目(その2)

1.1 全社的な取り組み ②公害の防止・軽減

No.	チェック項目
20	輸送機関(トラック、船舶等)の大気汚染の防止、軽減の施策を実施している。
21	騒音・振動の防止、軽減の施策を実施している。
22	水質汚濁の防止、軽減の施策を実施している。

1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制 ①製品開発

No.	チェック項目
23	包装資材の削減を考慮した製品開発を実施している。
24	輸送効率を考慮した製品開発を実施している。
25	物流に関する記載が含まれた製品アセスメントガイドラインやマニュアルを利用して、製品評価を実施している。

1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制 ②生産体制

No.	チェック項目
26	積載率向上又は環境負荷の少ない輸送手段使用といったことに対応した生産体制を構築している。

2-7. チェック項目(その3)

1.3 商取引の適正化 ①ロットの適正化

No.	チェック項目
27	取引先と協力し、取引基準を設定(取引単位を物流単位と整合化するなど)している。
28	取引先にインセンティブ(ロット割引等)を提供して、輸送単位を大きくするように誘導している。

1.3 商取引の適正化 ②頻度・時間の適正化

No.	チェック項目
29	取引先と協力し、配送頻度、納品回数の削減や、リードタイムの見直し(延長)を実施している。
30	取引先と協力し、輸送量のピーク期間を移動させることにより平準化している。
31	入出荷時間を定刻化し、車両の待機時間を短縮している。

1.3 商取引の適正化 ③返品・回収の適正化

No.	チェック項目
32	返品抑制のために、返品物流費の有償化や売買契約(納品条件)の見直し等の施策を実施している。

2-8. チェック項目(その4)

1.4 ネットワーク設計 ①立地戦略

No.	チェック項目
33	環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている。

1.4 ネットワーク設計 ②モーダルシフトの推進

No.	チェック項目
34	輸送に鉄道を利用している。
35	輸送に船舶(フェリーを含む)を利用している。

1.5 情報化・標準化 ①情報化の推進

No.	チェック項目
36	実需要に即応した体制、又は需要予測の精度を向上させ、無駄な生産、在庫、輸送を削減している。
37	標準物流EDI(JTRNなど)を利用し、配送伝票を電子化している。
38	標準輸送ラベルを使用している。

1.5 情報化・標準化 ②スペック・サイズの標準化

No.	チェック項目
39	ユニットロードシステムを導入している。

1.6 共同化 ①共同輸配送の実施

No.	チェック項目
40	輸配送車両の削減や積載率を高めるために、共同輸配送を実施している。

1.6 共同化 ②保管施設の共同化

No.	チェック項目
41	物流拠点を他社と共同で利用している。

2-9. チェック項目(その5)

2.1 包装の見直し ①包装資材の廃止・スリム化

No.	チェック項目
42	使用包装資材を薄肉化、軽量化(段ボール紙質の軽量化 他)している。
43	包装形態を簡易化(通い箱、ハンガー輸送、部分包装など)している。
44	小箱包装を廃止して大箱にまとめている。
45	未使用時も減容化しやすい包装材(折りたたみ式通い箱、組み立て式包装資材など)を採用している。
46	無包装化に取り組んでいる。

2.1 包装の見直し ②リユース・リサイクル

No.	チェック項目
47	運搬容器やパレットのリユースについて、全社でシステム化し管理している。
48	リターナブル、リユース、リサイクル可能な包装資材、運搬容器を使用している。

2.1 包装の見直し ③環境負荷の低い素材の使用

No.	チェック項目
49	包装資材の再使用、再資源化、廃棄を考慮して、素材を変更している。
50	再生素材を原料とする包装資材を使用している(バージン素材を使用しない)。
51	有害物質を含まない包装資材を使用している。

2.1 包装の見直し ④低公害機器の導入

No.	チェック項目
52	省エネ型、低公害型の包装用機器を導入している。

2-10. チェック項目(その6)

2.2 輸配送の見直し ①輸配送計画の見直し

No.	チェック項目
53	現状の輸送量やリードタイム等を勘案し、環境負荷の少ない輸送手段の使用を定期的に検討している。
54	配送において、物量に応じて、車種、車数、配送ルート、配送回数をきめ細かく見直し、配車計画に反映させている。
55	輸送において、輸送先、輸送量に応じて拠点経由と直送を使い分け、全体で輸送効率を向上している。
56	便数削減のために、トラックの大型化、トレーラー化をすすめている。

2.2 輸配送の見直し ②積載率の向上

No.	チェック項目
57	帰り荷の確保のための工夫(求貨求車システムの導入等)をしている。
58	輸送・取引単位が小ロットの場合は混載や共同輸送を利用している。
59	得意先への配送の際には、他社との共同配送により積載率を高めている。
60	調達物流においてミルクラン方式(共同運行含む)を利用している。
61	車両の積載効率向上のために、二段化等、積載方法を工夫している。

2-11. チェック項目(その7)

2.2 輸配送の見直し ③点検・整備・安全管理

No.	チェック項目
62	タイヤ空気圧の測定・補充を定期的に行っている。
63	エアフィルターの点検・清掃・交換を定期的に行っている。
64	排気ガスの色を目視で確認している。

2.2 輸配送の見直し ④エコドライブ

No.	チェック項目
65	エコドライブに係るマニュアル等を用いて、エコドライブ活動を実施している。
66	デジタコ等を活用し、ドライバーへエコドライブ指導を実施している。

2.2 輸配送の見直し ⑤低公害機器の導入

No.	チェック項目
67	クリーンエネルギー自動車を導入している。
68	最新の排気ガス規制に対応したトラックを前倒しで導入している。
69	エンジン停止時も冷凍機能が停止しない冷凍車を使用している。
70	エコタイヤを導入している。
71	バイオマス燃料を利用している

2-12. チェック項目(その8)

2.3 荷役・保管・流通加工の見直し ①機器導入・運用の工夫

No.	チェック項目
72	環境負荷の高い物流機器を削減し、省エネ型物流機器、低公害型物流機器を導入している。
73	効率的な人員配置と機器運用により、稼働時間の短縮を実現している。
74	環境負荷の低減を考慮して、物流機器の使用の制限や適切な能力の機器の選択を行っている。

2.3 荷役・保管・流通加工の見直し ②施設設計・レイアウト

No.	チェック項目
75	物流量の変動並びに作業動線を考慮して、倉庫レイアウト、あるいは在庫レイアウトを変更している。
76	入荷と出荷の車両が混雑・交錯・滞留しないように、施設・レイアウト設計の工夫、もしくはタイムスケジュール管理を行っている。
77	積みおろしに伴う待ち時間のアイドリングを防止するため、ドライバー控室を設置している。
78	電力設備、照明、空調に省エネ機器を導入している。
79	ラック、ネステナー、パレットサポーター等によって保管効率を向上させる工夫をしている。
80	荷物積みおろし中の冷凍車のアイドリング防止のため、保冷車用のコンセントを設置している。
81	冷蔵・冷凍倉庫において、代替フロン(HFC)や自然冷媒を使用している。
82	冷蔵・冷凍倉庫において、できるだけ外気が侵入しないように工夫をしている。
83	冷蔵・冷凍保存が必要な商品が過剰冷却にならないようにしている。

2.3 荷役・保管・流通加工の見直し ③物量の平準化

No.	チェック項目
84	在庫量、出庫量、保管量を平準化し、保管スペースをコンパクトにしている。
85	不動在庫、不良在庫等の無駄な在庫を削減し、保管スペースをコンパクトにしている。

2.3 荷役・保管・流通加工の見直し ④資材削減・変更

No.	チェック項目
86	ラベルやラベルインキ、テープ、養生資材等の購入の際に、素材を考慮している(グリーン購入)。

2-13. 実施度合いと参考情報

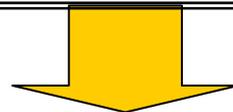
No	チェック項目
1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。

実施度合い			
1. 出来ていない	2. 遅れ気味で努力不足	3. まずまず出来ている	4. よく出来ている
企業の環境方針、行動計画等を策定していない。	企業の環境方針、行動計画等を策定しているが、トップのコミットメントがない、もしくはコミットメントの有無が不明である。	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	左記に加え、企業の環境方針については、社内のみならず社外へも積極的に公表している。

参考情報、関連団体等
<p>・トラック運送事業におけるグリーン経営認証マニュアル(交通エコロジー・モビリティ財団) http://www.ecomo.or.jp/topix/green_management_manual_truck_mokuji.pdf</p>

<これまでの活動>

グリーンロジスティクスチェックリストの作成



<目的>

- ・物流・ロジスティクスに携わる企業に有効活用していただきたい
- ・物流・ロジスティクスにおける環境対応の現状を把握し、結果を周知したい



- ・「グリーンロジスティクスチェックリスト」を用いた調査の実施
- ・回答企業に対し、自社の取組度合いが他社と比べてどの程度なのかが分かるような簡易診断結果の作成、返却(無料)

2008年5月28日

3-3. 簡易診断結果(案) (その1)

結果の全体が
把握できる

グリーンロジスティクスチェックリスト 簡易診断結果

チェックをつけた
点数(1~4点)の
合計点

回答企業 ○×△電機

業種 製造業

“平均点”から算出した順位

● 総括表

回答企業の平均点
(合計点÷「1~4と回
答した」設問数)

		合計	方針	活動	貴社順位
貴社回答	合計	191	96	95	
	平均	2.22	2.34	2.11	
業種平均	合計	181	86.5	94.5	
	平均	2.1	2.11	2.1	3 / 4
全体平均	合計	177.7	81.7	95.9	
	平均	2.07	1.99	2.15	5 / 10

回答企業の結果

この会社が属する
業種(この例では
製造業)の平均

回答企業全社の平均

<参考> 偏差値 52.7

86項目全ての結果欄

方針(41項目)の結果欄

活動(45項目)の結果欄

“合計点”から算出した偏差値

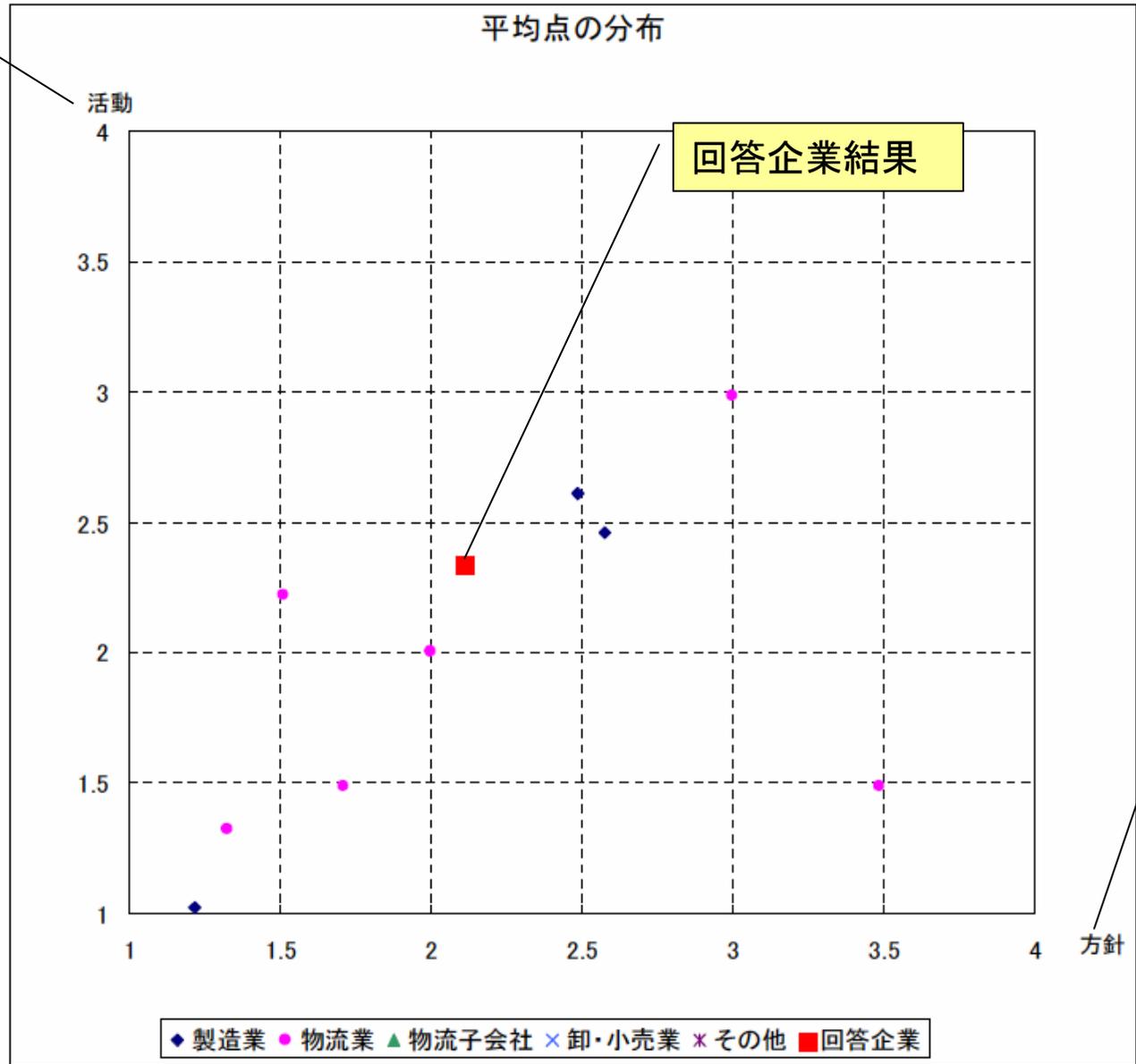


3-4. 簡易診断結果(案) (その2)

自社及び他社の位置づけが把握できる

●平均点の分布

活動の
平均点



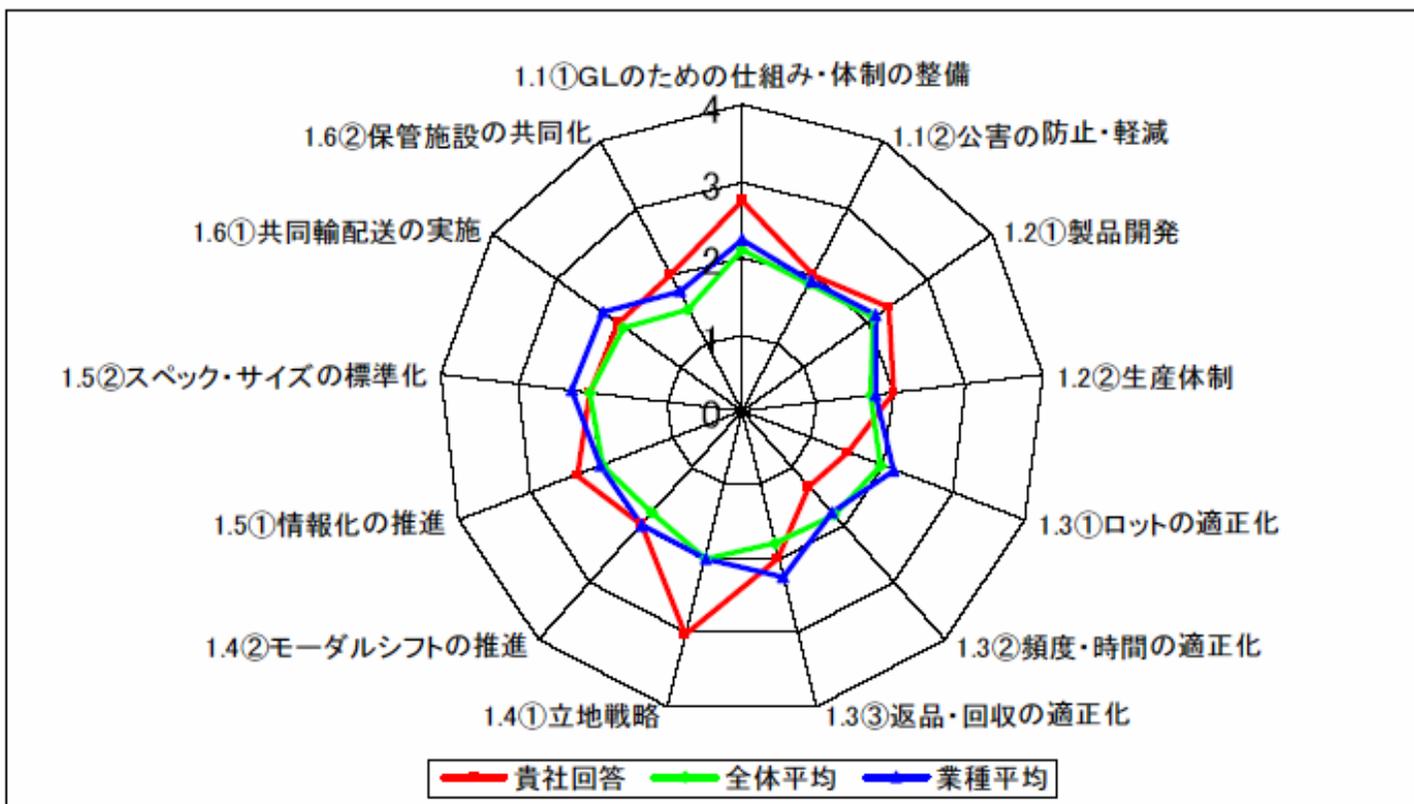
方針の
平均点

3-5. 簡易診断結果(案) (その3)

中分類ごとに平均値を算出し、自社回答、全体平均、業種平均と比較することで、取り組みが進んでいる項目、遅れている項目が把握できる

●レーダーチャート

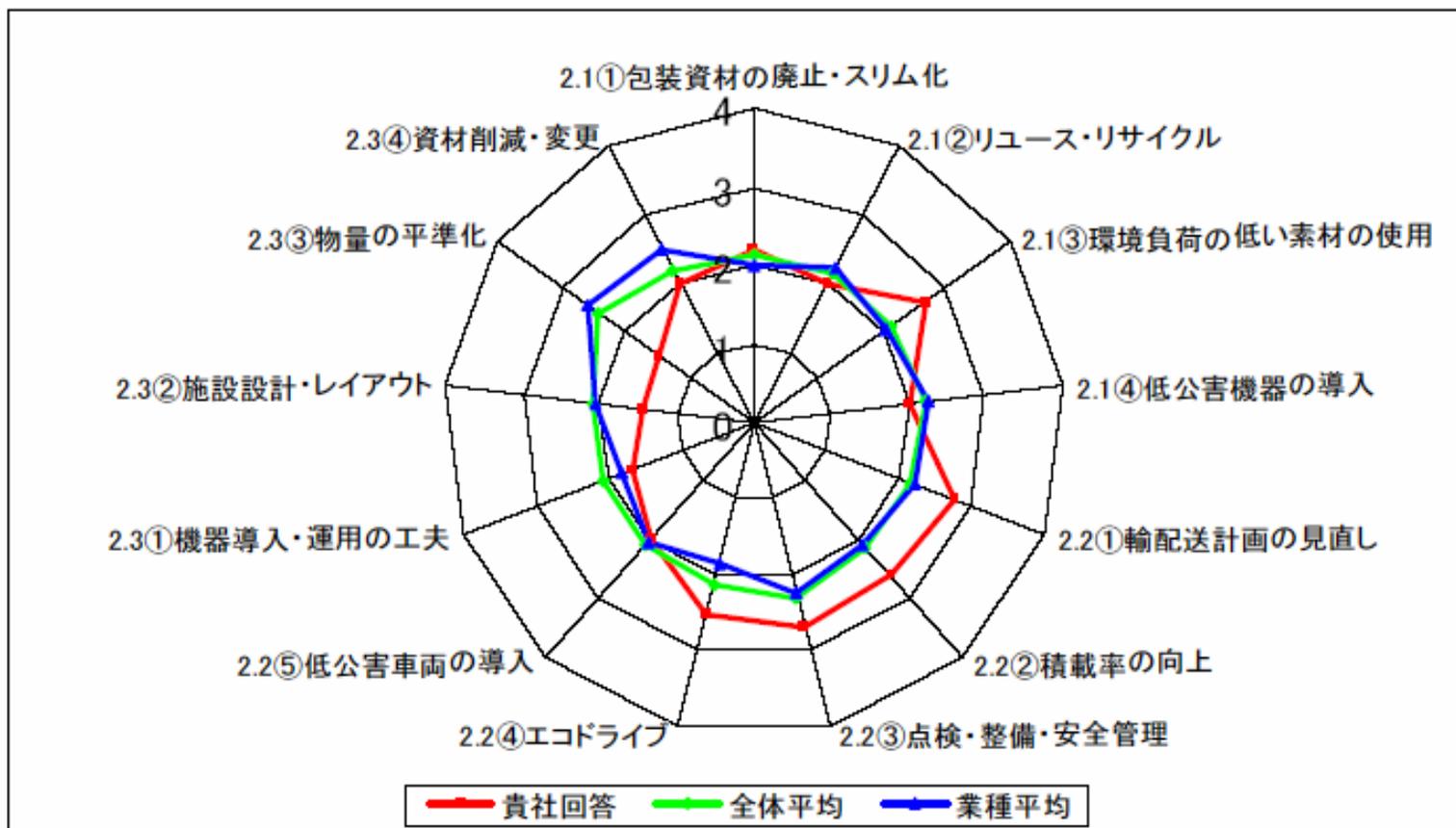
<方針>



3-5. 簡易診断結果(案) (その4)

中分類ごとに平均値を算出し、自社回答、全体平均、業種平均と比較することで、取り組みが進んでいる項目、遅れている項目が把握できる

<活動>



3-6. 簡易診断結果(案) (その5)

前スライドのレーダーチャートを表にして数値を示すと共に、業種平均値を比べて、自社回答が上回ったかが一目で判断できる

【グリーンロジスティクスチェックリスト中分類結果】 回答企業名: ○×△電機

方針

1.1 全社的な取り組み

①グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備	貴社回答: 2.74 ○ 業種平均: 2.24 全体平均: 2.11
---------------------------	---

②公害の防止・軽減	貴社回答: 2 ○ 業種平均: 1.92 全体平均: 1.87
-----------	--

1.2 環境に配慮した製品開発・生産体制

①製品開発	貴社回答: 2.33 ○ 業種平均: 2.17 全体平均: 2.1
-------	--

②生産体制	貴社回答: 2 ○ 業種平均: 1.75 全体平均: 1.7
-------	---

1.3 商取引の適正化

①ロットの適正化	貴社回答: 1.5 × 業種平均: 2.12 全体平均: 1.95
----------	--

②頻度・時間の適正化	貴社回答: 1.33 × 業種平均: 1.75 全体平均: 1.83
------------	---

3-7. 簡易診断結果(案) (その6)

86項目すべての項目について、自社回答、業種平均、全体平均を示すとともに、業種平均値を比べて、自社回答が上回ったかどうか
が○×で判断できる

【グリーンロジスティクスチェックリスト項目別結果】 回答企業: ○×△電機

方針

1.1 全社的な取り組み

① グリーンロジスティクスのための仕組み・体制の整備

No	1	企業の環境方針、行動計画等は、トップのコミットメントにより策定されている。	貴社回答: 3 業種平均: 2 全体平均: 2.2	○
No	2	環境委員会や環境部門で、ロジスティクス分野における方針が策定されている。	貴社回答: 3 業種平均: 2.2 全体平均: 2	○
No	3	グリーンロジスティクスを推進する体制が構築されている。	貴社回答: 4 業種平均: 2.8 全体平均: 2.5	○
No	4	グリーンロジスティクス推進に向けての計画があり、周知徹底している。	貴社回答: 3 業種平均: 2.8 全体平均: 2.2	○
No	5	グリーンロジスティクス推進のため、社員へ教育(人材育成)を行っている。	貴社回答: 4 業種平均: 2.2 全体平均: 2	○
No	6	ロジスティクス活動において発生する環境負荷の項目を把握している。	貴社回答: 3 業種平均: 2.5 全体平均: 2.4	○

2008年7月 : 第3期環境会議 第1回本会議

2008年8~9月 : 調査実施

2008年10~12月 : 集計、取りまとめ、結果返却

**2009年1~3月 : 結果の普及啓発
(報告会の開催、
JILS機関誌等での発表等)**

* 変更の可能性有

第3期ロジスティクス環境会議メンバー

→事務局より、登録者宛に連絡

環境会議メンバー以外

→機関誌「ロジスティクスシステム」

JILSメールマガジン、ロジスティクス環境会議
ホームページで周知

3-10. 「ロジスティクス環境会議」ホームページ

ロジスティクス環境会議 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス(D) http://www.logistics.or.jp/green/index.html

Google 検索 ブックマーク ブロック数: 0 チェック 次へ送信

製造業・流通業・物流業のコラボレーションによる環境負荷の低減 JILSオフィシャルサイトへ

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

▶ 関連法規 ▶ 関連リンク ▶ 用語解説 **グリーン物流パートナーシップ**

メンバー一覧
活動趣旨と概要
委員会資料
事務局からのお知らせ

ロジスティクス・グランドデザイン
ロジスティクス環境宣言
第1、2期活動の概要
環境負荷低減活動支援ツール
グリーンロジスティクスガイド
グリーンロジスティクスチェックリスト

個人が変わる、
企業が変わる、
物流が変わる。

第2期ロジスティクス環境会議開会にあたって 全文を読む
三村 明夫
第2期ロジスティクス環境会議 議長
社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会長
(新日本製鐵株式会社 代表取締役社長)

第3期参加募集のご案内(2008年5月~2010年3月) 全文を読む

クリック



3-11. 「グリーンロジスティクスチェックリスト」のページ

グリーンロジスティクスチェックリスト - Microsoft Internet Explorer

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 検索 お気に入り

アドレス(D) http://www.logistics.or.jp/green/report/08checklist.html

Google 検索 ブックマーク プロック数: 0 チェック 次へ送信

製造業・流通業・物流業のコラボレーションによる環境負荷の低減

ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan

関連法規 関連リンク 用語解説 **グリーン物流パートナーシップ**

HOME > [グリーンロジスティクスガイド](#) > [グリーンロジスティクスチェックリスト](#)

グリーンロジスティクスチェックリスト

グリーンロジスティクスチェックリスト

「グリーンロジスティクスチェックリスト」は、ロジスティクス領域において、環境負荷低減のために必要な活動項目を整理しております。具体的に、本チェックリストには、輸送・包装・荷役・保管・流通加工といった各物流活動において、環境負荷低減のために取り組むべき項目(86項目)を示すとともに、各項目ごとに自社の取組度合いの測定が可能となる実施レベル(4段階)の設定、さらには行政、関係団体、企業事例等の参考情報を掲載しております。

なお、スペースの関係で本ページの下段には項目のみ記載された簡略版を掲載しておりますが、実際に回答する際、あるいは参考情報を参照される際には、下記をご使用ください。

- [グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0 完全版 \(EXCELファイル:150KB\)](#)
- [グリーンロジスティクスチェックリスト Ver1.0 完全版 \(PDFファイル:290KB\)](#)
- [グリーンロジスティクスチェックリストの紹介等](#)

3-12. 「グリーン物流パートナーシップ会議」からのリンク

グリーン物流パートナーシップ会議の関連リンクページにも掲載

